

実践事例2

今生きていること - 守られてきた自分たちの命 -

芦屋市立精道中学校第3学年

1 テーマ

今生きていること - 守られてきた自分たちの命 -

2 実践のねらい

自分たちが生まれた当時、震災の影響で生活もままならない状況の中、「とにかく赤ちゃんを助けよう」という周りの人々の助け合いの中で生かされた自分たちの「命」の重さを知り、誕生の感動や、今後自分たちが周りの人々を大切にしていける気持ちを養う。

3 テーマ設定の理由

(1) 本校の概要と児童生徒の実態

本校は、学級数19(特別支援学級3クラス含む)、生徒数583人の学校で、阪神淡路大震災により当時の生徒5名を亡くしている。家族や親族を合わせると、実に多くの被害を受けている。今なお、経済的な理由や家庭環境で苦しい立場にたつ生徒も少なくない。

現3年生の生徒は、震災時、母親のおなかの中から、生まれて間もない乳飲み子であった。当時の様子を、保護者や地域の方々からの聞き取り調査という形で、2年時に総合的な学習の時間で行い、冊子にまとめた。3年生ではその内容を踏まえ、修学旅行の取組と重ねて、自分たちの命がたくさんの方たちに守られてきたことを改めて知る機会としたい。

(2) 指導のポイント

【感動の体験】

- ・自分たちが生まれた当時、多くの人々によって助けられた命の重さを実感させる。
- ・命の誕生や成長のすばらしさを実感させる。
- ・沖縄の文化に触れ、楽しさを感じさせる。

【感性を育む】

- ・学校生活を送る中で、お互いを大切にできる気持ちをもたせる。
- ・助産師から生命誕生などの話を聞き、「命の大切さ」を感じさせる。
- ・戦争中の人々の気持ちを想像させる。

【想像力の育成】

- ・自分たちの態度・行動によって相手がどのように感じるのかを想像させる。
- ・目の前で命が失われていく状況の中、どのような気持ちだったのかを考えさせる。

4 事前

(1) 先生の準備

- ・授業の中だけでなく、すべての教育活動の中で、命を大切にしていこうとする視点や姿勢を持つ。
- ・生徒の家庭環境をよく把握し、個別指導や家庭との連携など、十分な配慮をしておく。
- ・修学旅行(沖縄)の学習とも関連付け、戦争から学ぶことができる命の大切さについて、伝える内容を準備する。
- ・助産院より講師を招くための打ち合わせを行う。
- ・阪神淡路大震災に関する聞き取り調査など、2年時の取組と合わせて、生徒が感じてほしいことを教師間で確認しておく。

(2) 教育課程上の位置づけ

- ・道徳
- ・特別活動
- ・総合的な学習の時間

(3) 生徒たちの準備

- ・昨年度の取組を振り返る。
- ・修学旅行へ向けて、沖縄の歴史・文化を学ぶ。
- ・助産院の方への質問内容を考える。
- ・文化発表会へ向けて、伝えたいことをまとめる。

(4) 家庭・地域との連携

- ・学年通信や学級通信をとおして、生徒たちが学んでいる内容を随時知らせる。
- ・助産院の方への協力を依頼する。

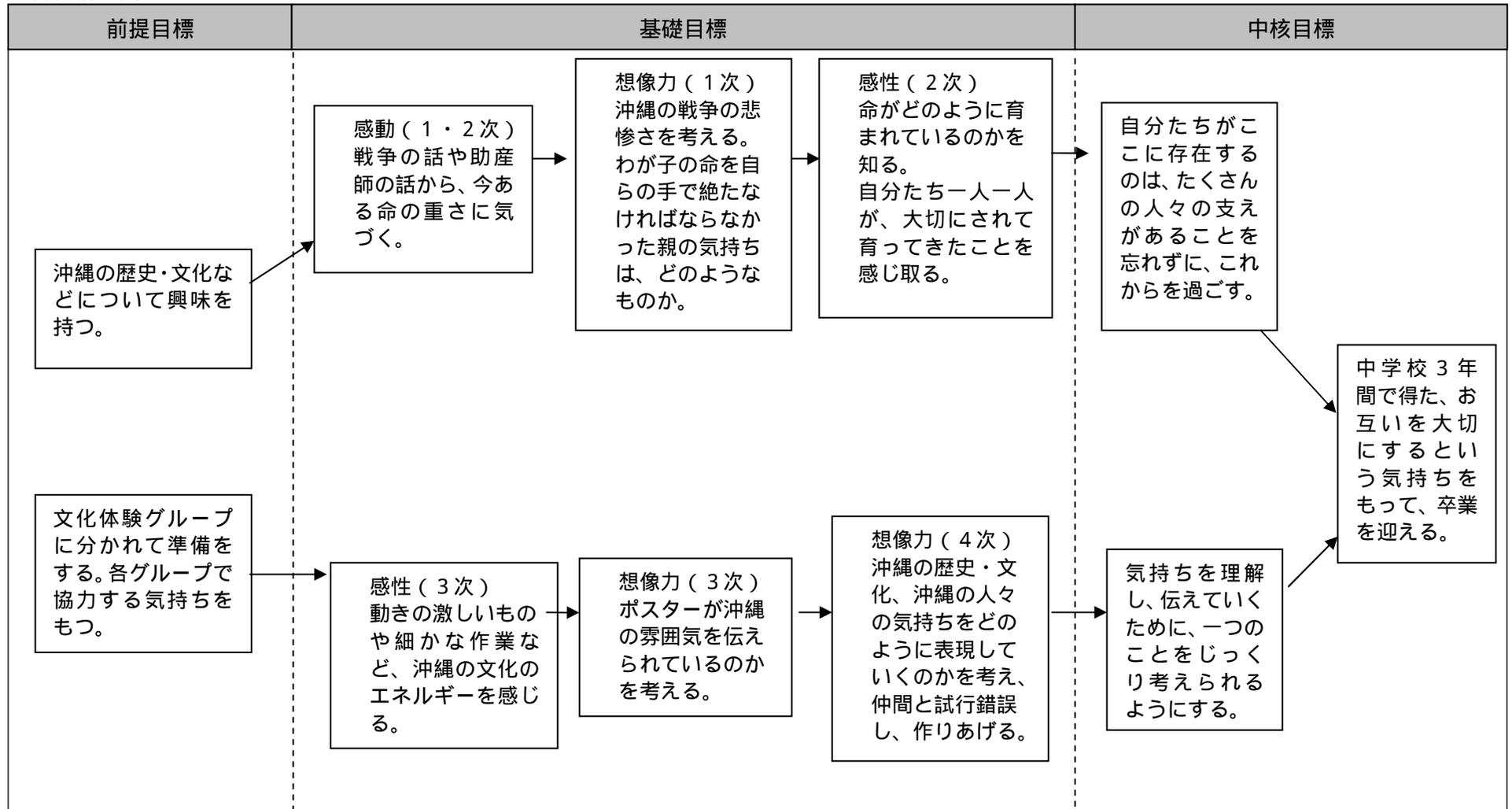
5 本校の実践の特色

- (1) 該当学年教師全員で取り組む。文化を学ぶ学習では、教師が分かれて担当する。
- (2) 昨年度の取組（震災体験聞き取り）から学んだ「命の大切さ」と修学旅行の取組から学ぶ「沖縄の心 - 『命（ぬち）どう宝』（命こそ宝） - 」とを重ね合わせる。
- (3) 助産院より講師を招き、性教育をふまえて「生命誕生」についてなどの講話を行う。「自分のいのち・からだ」を大切にすることを改めて考える機会とする。
- (4) 3年生として中学校生活で取り組んできたことをまとめ、文化発表会で全員参加のステージを創り上げ、3年間のまとめとする。

6 目標分析表

	学習活動	感動の体験	感性を育む	想像力の育成	先生の振り返り
事前	沖縄についてのイメージを持つ。 修学旅行で何について学びたいかアンケートに答える。	沖縄の人々との出会いに思いをはせる。	戦争や文化ということについて考える。	現在の沖縄はどのような状況なのか想像する。	
1次 (10時間)	沖縄戦についての映画鑑賞・講話を聞く。 文化や歴史についてクラスごとに調べ、資料集を作成する。 文化体験別のグループに分かれ、さらにくわしく調べ、準備する。	今ある命の重さに気づく。 これまでの歴史を振り返り、沖縄の文化を知る。	集団自決をした人々の気持ちを考える。 戦争とは何なのか、二度と起こしてはならないことを感じる。	我が子の命を自らの手で絶たなければならなかった親の気持ちを考える。 沖縄では現在どのような活動が行われているのか考える。	歴史をきちんと伝え、今の日本の平和を伝えられたか。 どのような文化があるのか幅広く興味を持たせることができたか。
2次 (3時間)	「潮騒」(三島由紀夫 著)の一部を読む。 助産師を招いて、人の誕生について学習する。	一時の感情に流されなかった主人公を知る。 助産師から直接、人の誕生や、出産の大変さについて話を聞く。	命がどのように育まれるのかを知る。 自分たちの命が一人一人大切にされたことを知る。	お互いの気持ちを大切にすることを考える。 自分が生まれてきたときも、このように大切にされて育ったことを感じ取る。	学級活動とつなげられたか。 命の誕生に携わる助産師の話聞いて、その重要性を理解させることができたか。
3次 (4時間+課外)	(修学旅行) 修学旅行で沖縄の文化や歴史に触れる。 まとめの新聞を作成する。	人々の温かさを知る。悲惨な出来事があったことを知る。 新聞作成をするにあたり、改めて沖縄の人々の心に触れる。	文化のエネルギーを感じる。 他者に伝えたいことを考える。	集団自決をせざるを得なかった人々の気持ちを推し量る。	沖縄の人々が過去にどのような経験をしているのかを、きちんと伝えられたか。 悲しいことを乗り越え、明るく振舞う沖縄の人々の様子を伝えられたか。
4次 (7時間+課外)	修学旅行の文化体験グループでポスター作りを行う。また、礼状を作る。 文化発表会でのステージに向け、各グループで練習する。 (文化発表会)	沖縄の人々のパワーを思い出す。礼状に感動のエピソードを記す。 心の動きを伝えられるように全員が気持ちを合わせる。	ポスターを見て沖縄の雰囲気が感じられるか、メンバーで話し合い、仕上げる。 ステージを見て沖縄の人々の気持ちを伝えられるように考えていく。	見ている人たちがどのように感じるか、想像して作りあげる。 「命どう宝」「ゆいまーる」の精神を自分たちで考えて発表する。	見栄えよく、気持ちの込めた作品に仕上がるよう声をかけたか。 全体として流れ良く3年間の集大成としてまとめられたか。 お互いを大切にすることを育むことができたか。
事後	命の学習をしてきてどうだったかを話し合い、振り返りを行う。	昨年度からの取組で一番感動したことをまとめる。	中学校生活の中で学んだことを作文にまとめる。	これからの人生をどのように送っていきたいか発表する。	

7 目標構造図



（凡例） 感性（1次）：「 」は指導の順路、「感性」は指導の観点が「感性を育む」、「（1次）」は学習活動が「1次」であることを示す。

8 事前の教員研修と指導の概要

(1) 事前の教員研修（実施の時期については、「(2) 指導の概要」の中に明記）

研修内容	
a	震災の聞き取り調査を受けて、気になる家庭環境などを共通理解する。 ・課題別生徒一覧を共通認識し、クラスでの様子などを交流する。生徒にかける言葉を慎重に選ぶことを確認する。
b	沖縄戦の歴史についてビデオ等で理解を深める。 ・2年時より修学旅行の取組として、沖縄について事前に教師が研修しておく。
c	生徒たちに学ばせたい項目をあげる。各担当を確認する。 ・各自担当分野について資料やインターネットを利用して内容検討を行う。
d	「助産院の方のお話」の内容を検討する。 ・生徒たちに学ばせたい内容を学年教師で検討し、講師の方に依頼する。 ・事前学習使用時の絵本や文書を使って研修する。

(2) 指導の概要（全24時間）

内 容	
事前	沖縄についてのアンケートをする。（文化・歴史など）
1次 （10時間）	<p>沖縄について学ぶ。</p> <p>1 修学旅行で訪れる沖縄の文化や歴史について学ぶため、各クラスで分野ごとに分担して調べる。 映画鑑賞を行う。 指導実践 p23～p24 （8時間）</p> <p>2 <u>ゲストティ-チャ-を招き、沖縄について知る。</u> 沖縄戦の体験者の話を聞き、戦争のおそろしさを知ると同時に、二度と起こしてはならないものだということを認識する。 （2時間）</p>
2次 （3時間）	<p>「助産院の方の話」を聞く。 指導実践 p24～p25 （1時間）</p> <p>1 小説を使い、事前学習を行う。 「潮騒」（三島由紀夫）</p> <p>2 <u>講師の方より生命誕生についての話を聞く。</u> （2時間）</p>
3次 （4時間+課外）	<p>沖縄の現地で学ぶ。</p> <p>1 修学旅行で沖縄の文化や歴史に触れる。 （課外）</p> <p>2 <u>まとめの新聞を作る。</u> 指導実践 p26～p27 （4時間）</p>
4次 （7時間+課外）	<p>発表「命どう宝・ゆいまーる ～沖縄・震災・フィリピン～」</p> <p>1 文化体験別のグループで、お礼の手紙、ポスター作りを行う。 （2時間）</p> <p>2 <u>文化発表会でのステージに向け、各グループで内容検討・準備・練習を行う。</u> （5時間+課外）</p> <p>指導実践 p27～p28</p>
事後	<p>振り返りを行う。</p> <p>3年間をとおして、命について考え、取り組んできたことをまとめる。</p>

【参考：昨年度（2年時）の取組 教育プログラムの概要】

指導の概要（全19時間）

1次	<p>震災の様子を知る。（全12時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの生まれた年に起こった震災について当時の様子を保護者や教師から聞く。（自分たちと同じ年の子どもを持つ教師、自分の周囲の人々） ・「人と防災未来センター」を訪問する。 ・家族を亡くした方からの講演を聞く。（震災で父を亡くした卒業生） ・当時の様子を知る地域の方々へのインタビュー、聞き取り調査を行う。（芦屋病院、芦屋消防署、防災安全課、小中学校教師、福祉関係）
2次	<p>自分たちが学んだこと、伝えたいことをまとめる。（全5時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビューから知ったこと、忘れてはならないことなどを班新聞にまとめる。一人が一つの記事を担当する。 ・各クラスで発表し、交流する。
3次	<p>『1・17の集い』に参加、発表をする。（全2時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・阪神大震災を風化させず、命の大切さや身近な人の大切さを知り、自らの生き方について考える節目とする。 ・2年生全体で取り組んできたことを、代表で何人かが発表する。

9 指導実践

1次	ゲストティーチャーを招き、沖縄について知る。
----	------------------------

(1) 第9・10時

ア 本時のねらい

沖縄戦を実際に体験した方の話を聞き、戦争のおそろしさについて知る。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

沖縄の心「命どう宝」を実感させる。

(イ) 感性を育む

性別を隠してまで講師の命を守ろうとしてくれた、ご両親の気持ちを感じ取らせる。

(ウ) 想像力の育成

戦争がいかにおそろしいものであるかを考える。そして、今何を大切にしたらよいか、を考えさせる。

ウ 準備物 なし

エ 先生の準備（事前の打ち合わせ）

(ア) ゲストの語り部の方との打ち合わせ

- ・沖縄戦の様子、そのときの自分はどのような様子で、どのような気持ちだったのか、などを話してもらうように依頼する。また、生徒に伝えたいことは何か、という点についても聞いておく。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 語り部の方が掲載された新聞記事を読む。 ・当時の写真資料を講演の前に見る。	・語り部の方の気持ちを思い 真剣に聞くように話す。
展 開	2 語り部の方の紹介をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 沖縄戦の様子について学びましょう </div> 3 語り部の方の講話を聞く。 ・父が自分の身を心配し、当時は少女の格好をさせられていたこと ・実母が命を奪われたこと ・戦争に関わった彼らに、ひどいことを行かせた戦争の残酷さを伝えたい ・沖縄は「海が青い」「空は広い」などの良いイメージばかりではない ・一番大事なものは「命」、そして次は「親」、いつも感謝の気持ちをもってほしい	・非常につらい思いをされた ということ、そして二度と 戦争を起こさないために語 り部をされているというこ とを話す。 ・真剣に話を聞いているかど うか様子を見る。
ま と め	4 講演の感想を書く。 ・語り部の方の伝えたいことは何だったのか、しっかり思い出す。	・授業後に集めて、生徒がど う感じているのかを把握し ておく。

カ 生徒の振り返り

性別を隠してでも命があってよかった、と言われていた。戦争のない世の中は平和だ
と思う。今の時代にいてありがたいと思った。（講話後の感想より）

キ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

- (ア) 沖縄戦の資料などを、少し読ませておいてもよかったのではないかなと思う。
 (イ) 作文について後で紹介する時間をとると、お互いの意見の交流ができ、講演で学んだ
 内容をさらに深めることができたのではないかなと思われる。

2次	講師の方より生命誕生についてのお話を聞く。
----	-----------------------

(2) 第2・3時

ア 本時のねらい

人の誕生について学習し、自分たち、仲間たち一人一人が、かけがえのない存在である
 ことを知る。

イ 指導のポイント

- (ア) 感動の体験
 出産シーンで赤ちゃんを見たときの母親の表情から、命の誕生の感動を理解させる。
 (イ) 感性を育む
 様々な出産があるが、どの赤ちゃんも大事にされ、誕生を喜ばれていることを感じさ
 せる。

(ウ) 想像力の育成

赤ちゃんのその後の様子を見て、自分たちも大切に今日まで育てられてきたことを想像させる。

ウ 準備物 なし

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) 助産院の方との打ち合わせ

昨年度より命の大切さを考える取組をしていることを説明しておき、講演内容もその内容に重点をおいたものにしてもらう。

(イ) ビデオ映像を事前にチェックし、中学生が真剣に見られるものかどうかを確認する。

(ウ) 出産に関する研修

昨年度の資料などを参考に、どのような内容の講演であるかを再度教師側で確認しておく。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 前回は学習した小説から、お互いを大切にすることを学んだことを確認する。 講師の方の紹介を聞く。	・学校生活にもつなげるように話をする。 ・どのような話をしていたか、簡単に触れる。
展 開	2 講演を聞く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px 0;">赤ちゃんが誕生するまでを知ろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・最初は小さな小さな卵であった。 ・お産はとても大変なものでお母さんたちは声をあげたりしながら出産する。 ・生まれてからも様々な困難にぶつかる。 ・まわりの人たちのサポートでだんだん大きくなっていく。 ・親にとってはたった一人のかけがえのない子である。 ・望まない妊娠などで赤ちゃんの命を亡くしてしまうことがないようにしてほしい。 3 感想とお礼を伝える。	・真剣に聞けるように様子を見る。 ・講話の内容については後で話ができるようにまとめておく。 ・ていねいに話すように指導する
ま と め	4 本時の学習の感想を書く。	

カ 生徒の振り返り

一つの『命』が誕生するということはすごいことなんだと思った。私が生まれたときも大変だったと母が言っていた。

出産のときはすごい声を出していたりしていたけど、赤ちゃんが誕生したら、みんな笑顔だった。

キ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

(ア) 生徒は真剣に話を聞いており、性教育とも関連させて心に響いたと思う。

(イ) 将来、助産師になりたい生徒がおり、以前からこの講演を楽しみにしていた。個人的に質問を準備してきており、講演後、講師の方と話をさせていただくことができた。生徒の「生き方」の学びにもつながったと思う。

3次	沖縄の文化や歴史に触れ、まとめの新聞を作る。
----	------------------------

(3) 第1・2時

ア 本時のねらい

修学旅行を終え、自分たちが学んだものは何か、確認する。

イ 指導のポイント

(ア) 感動の体験

沖縄の方たちの気持ちの温かさを感じさせる。

(イ) 感性を育む

沖縄の方たちの心を感じとらせる。

(ウ) 想像力の育成

お互いを大切にすることを。これからの学校生活にどのように生かすか、について考えさせる。

ウ 準備物 模造紙 マジック類 修学旅行の感想 沖縄の資料

エ 先生の準備（事前の打ち合わせと教員研修）

(ア) 打ち合わせ

修学旅行の感想を交流するポイントや、新聞で伝える内容等について確認しておく。

(イ) 沖縄についての知識の再確認

生徒がまとめたいと思う内容について、深められるように研修しておく。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 自分にとっての修学旅行を振り返る。 ・自分の書いてきた感想を読み返す。 ・班員またはクラスの仲間の感想を聞く。	・まずは発言しやすい雰囲気を作り、様々なポイントで修学旅行を振り返るようにする。 ・班行動につなげる。
展 開	<div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">まとめの新聞を作ろう！</div> 2 修学旅行のまとめの新聞を作る。 ・自分たちの班の分担を確認する。 ・班内での分担を決める。 ・タイトルを考える。 ・レイアウトを考える。 ・記事の文章を考える。 3 分担して作業をすすめる。 ・お互いに協力してすすめる。	・何を伝えたいのか、レイアウトなどを工夫するように声をかける。 ・協力してすすめるように机間巡視を行い、声をかける。
ま と め	4 今日の活動のまとめをする。 ・新聞作りは協力してできているか、どこまで進んでいるかを確認する。 ・次回の仕上げに向けてどのように進めるか分担しておく。	・きちんとまとめを行わせる。

- カ 生徒の振り返り
授業後の反省を見ると、「一部の人にまかせてしまった」「レイアウトは班で意見を出し合えた」などがあった。
- キ 先生の振り返り（次の実践に向けて）
 (ア) 班活動がきちんとできたか、という点に特に時間をかけて行った。今後の学校生活にもつながると思う。
 (イ) 班全員が作業を行っているのかをもう少し細かく確認する方がよかった。

4次	文化発表会でのステージに向け、各グループで内容検討・準備・練習を行う。
----	-------------------------------------

- (4) 第3時
- ア 本時のねらい
中学校3年間の取組のまとめとして
「命どう宝・ゆいまーる～沖縄・震災・フィリピン～」と題して、文化発表会のステージで発表する。
- イ 指導のポイント
 (ア) 感動の体験
沖縄の方々のエネルギーを表現できるように、振り返りの時間にできる限り全員の意見を発表させる。
 (イ) 感性を育む
お互いの発表を見て、観客にどのように伝わるのかを自分たちで感じとらせる。
 (ウ) 想像力の育成
「命どう宝」「ゆいまーる」の精神を自分たちならどのように表現できるか、また観客はどのように感じるのかを考えさせる。
- ウ 準備物 各グループ発表に向けての準備
- エ 先生の準備（事前の打ち合わせ）
 (ア) お世話になった沖縄の方々と連絡をとり、文化発表会での発表内容を知らせる。現地の方から伝えたいことなどがあれば聞いておき、発表内容に組み込めるようにする。
 (イ) 学級・学年だよりを発行し、各家庭にどのような取組を学校で行っているのか、を知らせる。

オ 展開

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 沖縄での思い出や学んだことなどを、それぞれ出し合う。 ・だれにでも家族のように接してくれた。 ・いつでも笑顔で元気であった。 ・戦争でつらい思いをされていても前を向いて生きている。	・できる限り全員に発表させ、全体の意見をまとめていく。

展 開	2 発表に向けてのイメージをつくる。	・全校生に何を伝えたいのか、ポイントを押さえる。
	文化発表会で発表しよう！	
	3 内容を考え、準備に向けて計画する。 ・おじい・おばあの人間性（あたたかさ）を出したい。 ・文化の生き活きた様子を表現したい。 ・震災から今まで、自分たちを大切に育ててくれたことを改めて感謝したい。	・全体の流れを説明し、各グループの発表内容をつかませる。
ま と め	4 次回からの内容を確認し、今日のまとめをする。	・次回からも時間を無駄にせず、計画的にすすめられるよう説明する。

カ 生徒の振り返り

沖縄の人たちは、みんなあたたかかった。その様子を表現したい。

1、2年生が「沖縄に行ってみたいな」と思えるようなステージにしたい。

キ 先生の振り返り（次の実践に向けて）

(ア) 単なる沖縄修学旅行の実践発表にならないように、もう少し全体のテーマを意識させた方がよかった。

(イ) 文化の発表グループは、ビデオを何度も見直して、出来る限り現地の方に学んだ踊りに近づけようと一生懸命練習していた。

10 実践を終えて

(1) 先生の振り返り

この学年は、震災を知る最後の中学生である。もちろん、産まれて間もない頃のことなので、記憶に残っている生徒はほとんどいないが、芦屋市で生まれ、大震災を経験したことは、忘れてはならないものにしてほしいという願いから、2年時の取組が生まれた。自分たちの命がどれだけの人々によって今までつながってきたのか、大切にされてきたのか、心の底から感じた生徒は少なくない。

【2年時の、震災に関する聞き取り体験を終えての生徒の感想】

私たちは、お話を聞いて多くの事を学び、考えることができました。ゲストの方は、私たちに人との出会いは大切に、というメッセージを伝えてくださいました。誰かを知っているだけでも命は救えるということは、今の私たちでもできる、減災への第一歩だと思います。多くの人と出会い、関わっていく中でお互いを大切にしたい関係を作っていきたいと思っています。

このインタビューで、今の僕たちが忘れがちな人と人との支えあい、つながりや命や時間の尊さを改めて実感しました。今も当たり前のように過ぎていく時間は二度と戻ってはきません。それなら二度と戻ってこない『今』を悔いのないように精一杯生きなければならないのではないのでしょうか。なぜなら僕たちは、数えきれないほど多くの人々の支えがあったからこそ生かされているのですから。

また、3年時には修学旅行での体験をとおして、再度命について考えさせられることとなった。国内で唯一地上戦が行われた沖縄の地を訪れ、悲惨さを目の当たりにすることにより、自分たちは戦争のない時代に生まれてきたことに感謝し、ありがたみを感じることができた。また、沖縄の方々の温かい人間性に触れ、人と人とのつながりを感じ、心のリフレッシュをさせていただいた。

【修学旅行の取組を終えての生徒感想】

私が一番心に残っているのは、ガマに入ったときです。ガマに入って、すごくこわい体験をしたけれど、ガマから出てみると、太陽の光がいっぱいさしこんでいて、外の空気がいっぱいあって、心が落ち着きました。きっと、ガマの中で生活していた人も外に出た時こういう気持ちになったんだろうなと思います。今の生活はおだやかだけれど、こういうこともあったんだというのをどんどん伝えていければいいなと思います。今回の修学旅行で、平和の大切さがすごくわかったし、沖縄の人々の優しさや温かさがすごく伝わってきました、どれだけ伝えられるかはわからないけど、自分ができるかぎりのことはして伝えていきたいです。

エイサーを教えてくれた人たちはみんな親切でした。動きがわからなかったら、個人的に教えてくれたし、何度も何度も見本を見せてくれました。文化発表会では、親切に教えてもらった分、一生懸命おどって、沖縄の文化を伝えられたらいいなと思います。

今回、沖縄の人々の心の温かさをとても感じました。それはおじい、おばあのちょっとしたでも楽しませてくれようとしているところや、優しさなど、接しているとても多く見つけることができます。やっぱり、沖縄独特の良さはとてもいいものだなと思いました。学校生活でも友達との付き合いなどにいかしていきたいです。

「命どう宝・ゆいまーる」(命こそ宝・ともに生きる)の精神は、学校生活にも浸透している。生徒たちが卒業後も、中学校で学んだことを、どこかで生かしてほしいと願っている。

(2) 今後の課題

ア 授業実践上の課題

学年全体の取組であり、学年担当教師全員の目的把握・内容確認が必要である。そのために打ち合わせの時間をかなりとる必要がある。

イ 家庭・地域との連携についての課題

各家庭へは学級だより・学年だよりを通じて、学校でどのような取組を行っているのかを随時知らせた。当日の発表には、たくさんの保護者が見に来られた。オープンスクール期間と重なったということもあり、練習風景なども見て頂けたのはよかったと思う。また、沖縄の方々へ、ビデオなどを送って報告をすればよかったのではないかと思う。

ウ 学校の組織運営上の課題

様々な取組を行う上で、体育館・多目的室など一時にたくさんの施設・設備を使用する場合、他学年との調整に時間を費やした。時間割上の問題もあるが、綿密な計画が必要である。

11 参考・引用文献

三島由紀夫 『潮騒』 新潮社 1955